

顔百態

環 眞砂緒子

お前はまだ人間の顔をしてゐない
衷心から嬉しい時のお前は
おかめの面を附けた
お目出度い顔をしてゐる

衷心からむらむらと
怒り立った時のお前は般若の面を
附けた物凄い夜叉の顔をしてゐる

世の中がつまらなくなつた時の
お前はひよつとこの面を附けた
下素根性の顔をしてゐる

百面相だ、百面相だ
そうだお前は眞實百面相だ
お前は生まれ乍らお面を附けて
生れてきたのだ

百面相に哭き百面相に踊る奴だ
お前が今、お面を取つたとて
お前の顔は人間の顔はしてゐない

お前が百面相の面を附けたまゝ
鏡を見て、その鏡の中に
喜びもない怒憤もない悲嘆もない
無表情の顔を發見した時こそ
それが眞實の人間の顔で
お前のほんとうの顔なんだ。

山桜 昭和九年七月号

(詩)